

Next is us

日体魂の聖火リレー
～日体魂を受け継ぐ者～

15

ソフトボール男子

小山 玲央



——レベルアップを目指して日体大へ
高校2年生の冬、当時の監督から日体大に來ないかとお話を頂きました。自分としても卒業してすぐに実業団チームに行くよりもっとレベルアップしてからという思いがありました。高校の監督が日体大のOBで、その実績も伺っていたので、大学で一番強い日体大に行こうと決めていました。初めて大学生のプレーを見た時は、高校生とは違うスピードやパワーを実感しました。そんなレベルが高い中でも、1年生から大事な場面に起用されたことは大きな自信になりました。

——大学時代に印象に残った試合は？

まず1年生のインカレ決勝です。相手の国士舘大学はリーグ戦でも0点で押さえたことがなく、先発を任された決勝でも失点を許し、最後まで投げられませんでした。同じく1年生の時、全日本総合という、大学生や実業団の垣根を超えて日本一を決める大会の1回戦で、宮崎の旭化成と対戦しました。自分が4回までゼロで抑え、その後は継投で最終回の2アウトまで勝っていたのですが、そこで同点のホームランを打

たれ、結局延長戦で負けてしまいました。自分ももう少し信頼されるピッチャーだったら、7回まで投げて勝っていたかもしれない。それが心残りです。

一番嬉しかったのは、大学2年の全日本総合で学生初の優勝ができたことです。特に印象に残っているのは準決勝のホンダエンジンアリング。相手のピッチャーがアンダー19のチームメイトで、高校の頃から良きライバル関係で切磋琢磨していた選手だったのです。そこでしっかり投げ合い、投げ抜いて勝てたのが嬉しくて、印象に残っています。

——チームのキャプテンになってからは？

新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止になる中、インカレの代替大会を開催して頂き、そこで日本一になったのは嬉しかったです。モチベーションが上がりにくい状況でも日頃の練習から周りをまとめ、最後に結果が付いてきたのは、キャプテンを務めて良かったと思います。チームとしてはコーチの方がアドバイスをくださり、いくつかのグループに分かれてアيسカッションを行いました。そこで新しい1年生ともしっかり会話や交流ができ、全員がソフトボールのことを考えて取り組めたので、練習が再開された時にスムーズに気持ちを切り替えられたと思います。

——メンタルの強さの秘密

いい意味で自分は何も考えていないというか、他のピッチャーだったら慌てたり不安になるような場面でも、点を取られたら取り返せばいいと前向きに考えます。今まで練習でやってきたことも自信に繋がって



るので、腹を括って投げられるんです。そもそも試合の出どころはピッチャーなので、そこがあたりふたしていたら周りに迷惑がかかります。自分は人一倍強いメンタルを持たなくてはいけないと思っていますので、それがピンチに負けない気持ちに繋がるのではないのでしょうか。

——今後の抱負や後輩へのメッセージ

今年の代替大会も後輩にはとても助けられました。4年生だけで優勝できるものではない以上、チームの目標であった4連覇は達成できていません。自分たちができなかった4連覇に向け、頑張ってほしいと思います。

私自身は卒業後は岡山県の平林金属株式会社に入社します。ここには日本でもトップクラスのソフトボールチームがあり、練習環境も整っています。そこでもう一度、自分のソフトボール人生を1から歩んで行くつもりです。そして、いつか全日本総合の決勝で日体大と日本一をかけて対戦するのが、今後の夢の一つです。

負けない気持ちを大事に、練習できない期間も乗り越えた後輩に託す大学選手権4連覇



Next is us 日体魂の聖火リレー

小山玲央選手からエールをいただきました。コロナもなかなか取まらない中、モチベーションを保つには目標を持つことが一番大切です。目標がなかったら、何のために頑張っているのか分からなくなってしまいます。他人にどう思われようと、自分の目標をしっかりと持つ。そうすることで競技力やモチベーションは上がっていくと思います。また、延期はされましたが2021年には東京五輪が開催される予定です。一生に何回もあることではありません。楽しむことはもちろん、自分が関わる競技のトップレベルの選手を間近で見られるチャンスです。ぜひ機会を活かして勉強してください。